

イベント開催の報告

「RSA Conference USA 2019」 JAPAN パビリオン出展

海外市場開拓 WG リーダー 一宮 隆祐 (NEC)

JNSA海外市場開拓WGに参加する会員企業8社は2019年3月4日(月)から8日(金)にかけて米国 サンフランシスコで開催された「RSA Conference USA 2019」にJAPANパビリオンを出展いたしました。「JAPAN」冠のブースにて、各社が一丸となり自社製品・サービスをアピールした結果、パビリオンには日本を含む52か国 2,200名を超える来場があり、具体的な商談にも数多く繋がりました。

RSA Conference USA 2019 概要

名称: RSA Conference USA 2019 <https://www.rsaconference.com/events/us19>

会場: 米国 サンフランシスコ, “Moscone Center”

日程: 2019年3月4日(月) - 2019年3月8日(金) [展示会は7日まで]

JAPAN パビリオン出展企業

1. アドソル日進株式会社
2. アルプスシステムインテグレーション株式会社 (現地名称NetSTAR)
3. 株式会社インフォセック
4. エムオーテックス株式会社 (現地法人Interfocus)
5. 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT)
6. 株式会社ディアイティ
7. 株式会社日立システムズ
8. 日本電気株式会社株式会社 (NEC)

概要

RSA Conference USA 2019には約43,000名、700社もの企業・組織が出展。国際パビリオンとしては、日本を含む8カ国(日本、イスラエル、ドイツ、カナダ オンタリオ州、スペイン、英国、韓国、中国北京Z-Park)が出展し、自国の企業を支援・アピールをしていました。

JAPANパビリオンはRSA Conference USA へ初出展ということもあり、場所の確保に苦労をしました。出展場所の確保は、スポンサーや前回出展企業が優先されるため、2018年4月に予約がオープンになった時点でほぼ埋まり、初出展企業は後回しにされます。初出展企業の場所の確定は何度も延期された末、2018年8月に展スペースを確保できました。

今回、JAPANパビリオンは濃紺『サムライブルー』をベースに造作し、パンフレットや寿司消しゴムをノベルティとして活用しながら集客に努めました。特にノベルティの“寿司消しゴム”に目を止め、それをきっかけにブースでのデモ、リードを獲得する流れが多くありました。その他にも、1時間に一度ミニプレゼンを行い、小さいブースながらもJAPANパビリオンは賑わいをみせ、具体的な商談にも数多く繋がりました。



イベント開催の報告



また、3月6日（木）の夜には、近くの日本食レストランの一角を貸し切り（100人規模を想定）、日本食を食べながらネットワーキング、商談を行うことを目的としたレセプション「Sushi Night」を開催しました。RSA Conferenceの来場者に対してチラシを配布し、集客を行いました。雨が降っており、展示会場からも離れていたため集客に苦戦することを予想していましたが、開場前から店外に列ができ、想定を遥かに超える200人以上が来場する結果となりました。多少の混乱はあったものの、運営メンバーの奮闘とお店の協力により、事故もなく無事に終わることができました。本来のレセプションの目的はあまり達成できず、運営面での課題・反省はありますが、日本食人気を肌で感じることができ、日本人の誇りを感じる瞬間でした。

JAPANパビリオンは国際パビリオンとしては最小のスペースながらも、計4日間で52か国 2,200名を超えるリードを獲得できました。実際に展示員としてブースに立つと、予想以上に日本や日本のサイバーセキュリティ製品・サービスに興味を持っていることを感じました。出展企業によっては、北米進出や販路拡大となりえる商談もあり、本出展の有効性が検証できたことは日本のサイバーセキュリティ産業としても大きな成果と言えます。この成功を足掛かりに、今回の反省を活かし、次回のJAPANパビリオン出展に繋げていきたいと考えています。

最後にJAPANパビリオン出展・運営においては、本当に多くの方々にご支援・ご協力を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。



JNSA海外市場開拓WGでは、海外展示会への出展や海外市場調査、海外進出マニュアルの作成、メンバー企業間での情報共有などの活動を行なっています。また、RSA Conference USA 2020（日程・場所は下記をご参照ください）への出展を予定しております。海外ビジネスを既に実施している企業、海外進出を計画中の企業、また海外事業に関心のある個人など、ぜひお気軽にWGへご参加ください。

RSA Conference USA 2020 概要

会場：米国 サンフランシスコ，“Moscone Center”

日程：2020年2月24日（月）－ 2020年2月28日（金）

PKI day 2019 「IoTのトラスト」「トラストサービスの在り方」

セコム株式会社 IS 研究所
JNSA PKI 相互運用技術 WG リーダー 松本 泰

◆はじめに

今年度のJNSA PKI相互運用技術WGと電子署名WGが主催するセミナー PKI Day 2019^[1]は、2019年4月17日に140名余りの参加者のもと開催されました。毎年、恒例となっているPKI dayですが、ここ数年は、Society5.0等にみられる社会の変化に対応したPKIとトラストをテーマに開催しています。

今回PKI dayでは、午前の部において「IoTのトラスト」、午後の部においては「トラストサービスの在り方」というトラストを中心にそえたテーマで、それぞれ講演とパネルディスカッションを行い、密度の濃い議論が展開されTRUST dayとも言える1日になりました。

◆午前の部 「IoTのトラスト」

午前の部の「IoTのトラスト」では、低コストで高機能なIoTデバイスに組み込まれた暗号技術をベースとした「IoTのトラスト」について、標準化の観点、プラットフォームの観点、半導体(SoC: System-on-a-Chip)の観点等から、その意義等も含めた議論がなされました。

午前の部の「IoTのトラスト」の講演者とパネルディスカッションの登壇者は、以下の通りです。

【講演】	IoTにおけるトラスト実現に向けた技術的な仕組み 講師:株式会社レピダム 代表取締役 菅野 哲 氏
【講演】	セキュアなIoTを構築する技術 – Azure Sphere、Azure IoT Hubの場合 講師:日本マイクロソフト株式会社 エバンジェリスト 太田 寛 氏
【講演】	IoTセキュリティ強化のための技術戦略解説 講師:SHコンサルティング株式会社 代表取締役社長 河崎 俊平 氏
【パネルディスカッション】 「IoTのトラスト」	
モデレータ:	松本 泰 氏 セコム株式会社 IS 研究所
パネリスト:	菅野 哲 氏 株式会社レピダム 代表取締役 太田 寛 氏 日本マイクロソフト株式会社 エバンジェリスト 河崎 俊平 氏 SHコンサルティング株式会社 代表取締役社長

午前の部「IoTのトラスト」では、異なる観点からのパネルディスカッションでの議論を念頭に、立場の異なる3名の方に講演して頂きました。

最初の講演者の菅野氏からは、IETFにおけるIoTのトラストに関わる標準化の動向などを中心に講演して頂きました。IETFにおいて、メモリやCPU等に関して制約のあるデバイスを前提としたプロトコル等の標準化が盛んに議論されていますが、この制約のあるデバイスにおいてトラストを実現するための仕組みの検討について紹介がなされました。紹介された中でアステーションに関する標準化の話がありましたが、これはIoTデバイス等が自身の正当性を証明する仕組みの中心となる概念でもあり、今後、非常に注目される動向になるかと思えます。

二人目の講演者の太田氏からは、マイクロソフトのIoTプラットフォームであるAzure Sphere、Azure IoT Hubについて講演して頂きました。このAzure Sphere等のIoTプラットフォームは、サービスとして

イベント開催の報告

完成度が高く、その意味するところは比較的分かり易かったかと思います。PKI day 的には、Azure Sphere のコアコンポーネントのひとつである Azure Sphere MCU、更には、このMCUに組み込まれた暗号モジュールである Pluton security Subsystem 等の紹介から、IoTにおいて暗号技術を実装することの目的や意義の理解が深まったのではないのでしょうか。

最後の講演者の河崎氏からは、IoTの実体とも言える SoCにおいて、ハードウェアセキュリティを実現するアーキテクチャや、こうした SoC の開発動向、更に SoC の製造、IoT デバイスの製造、サービスに至る鍵管理などサプライチェーンについて話して頂きました。昔、半導体は「産業の米」といわれていた時代がありました。膨大な数の IoT は、膨大な数の半導体とその生産に支えられ、これらに暗号技術が組み込まれていくことを実感させられるお話だったかと思います。

パネルディスカッションでは、松本がモデレータを務め、この立場の異なる3名の方の話から「IoTのトラスト」の話をつまみ合わせるべく、議論を進めました。パスワード化している IoT に対して、抽象的な概念でもあるトラストという難しいテーマではありますが、この「IoTのトラスト」に関連する様々な活動の紹介等から、その意味するところが理解できたかと思います。また、この「IoTのトラスト」が、今後の IoT に関連するビジネスを進める上でも、また、IoTに関連した産業競争力を高める上でも重要だという認識が深まったのではないのでしょうか。

◆午後の部 「トラストサービスの在り方」

午後の部の「トラストサービスの在り方」では、トラストサービスの関わる世界の動向、トラストサービスに関する技術と法制度の在り方や、日本で議論すべきトラストサービスとは何か等について議論されました。午後の部の「トラストサービスの在り方」の講演者とパネルディスカッションの登壇者は、以下の通りです。

【講演】	米国航空産業で利用される PKI 講師:株式会社コスモス・コーポレーション 濱口 総志 氏
【講演】	英国オープン・バンキングにおけるトラストの確立 講師:株式会社野村総合研究所 IT 基盤技術戦略室 上席研究員 崎村 夏彦 氏
【講演】	Society5.0を支えるトラストサービスとトラスト基盤 講師:慶應義塾大学 大学院政策メディア研究科 特任教授 手塚 悟 氏
【パネルディスカッション】「トラストサービスの在り方」	
モデレータ: 佐藤 雅史 氏 JNSA 電子署名WGサブリーダー / JT2A 運営委員	
パネリスト: 宮内 宏 氏 宮内・水町IT法律事務所 弁護士	
宮地 直人 氏 有限会社ラング・エッジ	
手塚 悟 氏 慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特任教授	
濱口 総志 氏 株式会社コスモス・コーポレーション	
崎村 夏彦 氏 株式会社野村総合研究所 IT 基盤技術戦略室 上席研究員	

午前の部「トラストサービスの在り方」では、そもそも、トラストとは何か、トラストサービスとは何か、なぜ、トラストが重要になっているのかといった、より本質的な議論を念頭に3名の方にご講演して頂きました。

現在、こうした議論と類似した活動が、総務省の「プラットフォームサービスに関する研究会^[2]」と、その配下の「トラストサービス検討ワーキンググループ」で行われていますが、今回の講演者、パネリストの崎村氏、手塚氏、宮内氏は、この研究会の構成員でもあります。

最初の講演者の濱口氏からは、米国の航空業界におけるPKIの利用事例をお話し頂きましたが、この話題は、午前中の「IoTのトラスト」にも繋がる話でもあり非常に興味深いものでした。それは、(大型の)航空機のソフトウェアのサプライチェーン管理は、PKIによる署名の連鎖(Chain of Trust)により検証され、また、個々の航空機の運行管理における航空機を取り囲む様々なステークホルダーの信頼関係の構築、維持にもPKIが利用されているというものでした。

二人目の講演者の崎村氏は、総務省の研究会の構成員でもあり、プラットフォームビジネスおよびトラストに関して造詣の深い方になります。講演の前半は、ずばりトラストについての見解を話されましたが、ここでは「トラストの本質は、確認しないこと」という、これは当事者に代わって、トラストサービスプロバイダー等が確認していることを意味しますが、これに関しては、この後のパネルディスカッションでも大いに議論されました。崎村氏の講演の後半は、英国オープン・バンキングにおけるトラストの実装事例と、その実装にまつわる数々の課題に関するもので、これも大変興味深い話をして頂きました。

最後の講演者である手塚氏は、総務省の研究会の構成員でもあり、またワーキンググループの主査でもあります。この研究会とワーキンググループにおける議論や、こうした研究会が立ち上がった背景などについて、非常に広範囲な話をして頂きました。

パネルディスカッションでは、3名の講演者のほか、欧州におけるトラストサービスの標準化に詳しい宮地氏と、「プラットフォームサービスに関する研究会」の構成員である弁護士の宮内氏も加わり、トラスト、および、トラストサービスに関する法制度のあり方や技術の標準化など多角的な議論が展開されました。ここでの議論の内容は、非常に広範囲で、また深く、とても短い紙面で説明できるものではありません。総論としては、今後の社会(Society5.0、超スマート社会)においてトラストは、益々重要になるが、そのトラストの実現には多くの課題があり、その課題解決に向けて様々な努力が必要になるといったことになろうかと思えます。

◆おわりに

今回のPKI dayでは、ここ数年のPKI dayと同じく、Society5.0等にみられる社会の変化に対応したPKIをテーマに開催しました。

超スマート社会において、また、経済等がグローバル化する中、個人や組織、更にモノ(IoT)は、時間や空間を超えた非常に複雑な信頼関係が求められており、その求めに応じるのがIoTのトラストであり、また、トラストサービスの役割となると考えられます。

参考文献

[1] PKI day 2019

<https://www.jnsa.org/seminar/pki-day/2019/>

[2] 総務省プラットフォームサービスに関する研究会

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/platform_service/index.html